

を御覧になると、²⁰すぐに彼らをお呼びになった。この二人も父ゼベダイを雇い人たちと一緒に舟に残して、イエスの後について行った。

《ルカによる福音書 5 章 1-11 節》

¹ イエスがゲネサレト湖畔に立っておられると、神の言葉を聞こうとして、群集がその周りに押し寄せて来た。² イエスは、二そうの舟が岸にあるのを御覧になった。漁師たちは、舟から上がって網を洗っていた。³ そこでイエスは、そのうちの一そうであるシモンの持ち舟に乗り、岸から少し漕ぎ出すようにお頼みになった。そして、腰を下ろして舟から群集に教え始められた。⁴ 話し終わったとき、シモンに、「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をしなさい」と言われた。⁵ シモンは、「先生、わたしたちは、夜通し苦労しましたが、何もとれませんでした。しかし、お言葉ですから、網を降ろしてみましょ」と答えた。⁶ そして、漁師たちがそのとおりにすると、おびたしい魚がかかり、網が破れそうになった。⁷ そこで、もう一そうの舟にいる仲間に合図して、来て手を貸してくれるよう頼んだ。彼らは来て、二そうの舟を魚でいっぱいにしたので、舟は沈みそうになった。⁸ これを見たシモン・ペトロは、イエスの足もとにひれ伏して、「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです」と言った。⁹ とれた魚にシモンも一緒にいた者も皆驚いたからである。¹⁰ シモンの仲間、ゼベダイの子のヤコブもヨハネも同様だった。すると、イエスはシモンに言われた「恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる漁師になる。」¹¹ そこで、彼らは舟を陸に引き上げ、すべてを捨ててイエスに従った。

【礼拝後の茶話会のお知らせ】

本日の奨励者三浦先生は本学の卒業生で皆さんの先輩です。礼拝後黒澤記念講堂 2 階で茶話会を行います。学生さんも教職員もお弁当を持参して来てください。飲み物とお菓子が用意してあります。とくにインドのお話しを聞きたい学生さんや教職員の参加をお待ちしております。

【聖歌隊と一緒に歌いましょう】

大学礼拝では、学生・教職員の有志による聖歌隊が合唱をします。どなたでも参加できます。毎週礼拝前後にオルガン前で練習しています。

【次回の大学礼拝】2018年6月19日（火）10時40分

今回の礼拝は KNOW GOSPEL による LIVE です。KNOW GOSPEL とは、2000 年 9 月に札幌で誕生したゴスペル・クワイアで、会社員や学生などによって構成される音楽グループです。全身を使って神を讃美するブラック・ゴスペルから生まれた音楽を堪能してください。一緒に歌ったり踊ったりするのも歓迎します。お楽しみに！！

【前回の大学礼拝】2018年6月5日 学生340名 教職員ほか10名 合計 350名

【大学礼拝週報】 2018 年度 第 9 号（前学期第 9 号）

2018 年 6 月 12 日（火）午前 10 時 40 分

酪農学園大学 黒澤記念講堂

《大学礼拝》

司 式 高橋優子（キリスト教学教員）
奏 楽 佐藤理恵（野幌教会会員）
讃美指導 相原晴伴（循環農学類教員）

前 奏 「強き王なる主をほめまつれ」（ツイップ作曲）
讃美歌 讃美歌 354 番（かいぬしわが主よ）
聖 書 マタイによる福音書 4 章 18-22 節
祈 り
さん び 酪農学園大学聖歌隊
奨 励 「人を育てるには」
三浦照男（インド・サンヒッギンボトム農工大学教授）
報 告
讃美歌 酪農讃歌
後 奏 「主イエス・キリストよ、至高の善よ」（プレーガー作曲）

【本日の聖書】マタイによる福音書 4 章 18-22 節

¹⁸ イエスは、ガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、二人の兄弟、ペトロと呼ばれるシモンとその兄弟アンデレが、湖で網を打っているのを御覧になった。彼らは漁師だった。¹⁹ イエスは、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と言われた。²⁰ ふたりはすぐに網を捨てて従った。²¹ そこから進んで、別の二人の兄弟、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネが、父親のゼベダイと一緒に、舟の中で網の手入れをしているのを御覧になると、彼らをお呼びになった。²² この二人もすぐに、舟と父親とを残してイエスに従った。

【本日の聖書箇所と並行箇所】

《マルコによる福音書 1 章 16-20 節》

¹⁶ イエスは、ガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、シモンとシモンの兄弟アンデレが湖で網を打っているのを御覧になった。彼らは漁師だった。¹⁷ イエスは、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と言われた。¹⁸ 二人はすぐに網を捨てて従った。¹⁹ また、少し進んで、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネが、舟の中で網の手入れをしているの